

# 第3回 国際公文書館会議 東アジア地域支部 (EASTICA) 総会について

国際交流委員会委員長 (横浜開港資料館長) 安田 岩 男

昨秋、東京で開かれた第3回EASTICA総会に、全史料協を代表して出席したので、その概要を報告する。

ご承知のように、EASTICAは、国際公文書館会議 (ICA) の10ある地域支部のうちの一つで、東アジア地域支部として、5年前の1993年に設立された。総会は2年毎に開かれ、今大会が設立総会からかぞえて第3回となる。ちなみに、設立総会は北京にて、第2回総会はマカオにて開催された。

今回の総会の概要は以下のとおりである。

## 1. 期間および会場

会議は、昨年 (1997年) 10月14日 (火) から17日 (金) までの4日間、東京竹橋のKKR HOTEL TOKYOで開かれた。

## 2. 総会テーマ

今回のテーマは、「アーカイブズの歴史的発展とその東アジア関係史料の所蔵について」である。

## 3. 参加者

参加者は、正式参加者すなわちメンバー参加者と、オブザーバー参加者からなる。

正式参加者は、日本、中国、韓国、モンゴ

ル、香港、マカオの4か国・2地域のEASTICAのメンバーからの参加者である。ただし、朝鮮民主主義人民共和国からの参加はなかった。

参加者総数は61人。うち日本からは、国立公文書館、全史料協、企業史料協、沖縄県公文書館等から13人が参加した。それに14人の都道府県などよりの参加者があった。

## 4. 日程および内容

### 第1日 10月14日 (火)

〔開会式、総会I、名誉会員顕彰、カンントリーレポート、総理府次長主催レセプション〕

総会Iでは、活動報告、会計報告があり、事務局の提案どおり承認され、また、新役員候補者の紹介が行われた。カンントリーレポートでは、参加各国・地域より、「各国アーカイブズの歴史的発展について」を共通テーマに報告があった。

### 第2日 10月15日 (水)

〔基調報告 (中国、日本)、国立公文書館見学、EASTICA主催レセプション〕

基調報告は、中国と日本が行った。中国第一歴史档案馆の唐益年先生は、「明および清時代のアーカイブズ—中国の歴史・文化的遺産」のテーマで報告した。また、日本からは、筑波大学の大濱徹也先生が「日本のアーカイ



ブズー現在問われるべき課題をめぐり」について報告した。

### 第3日 10月16日(木)

[総会Ⅱ、国立国会図書館見学、閉会式、国立公文書館長主催フェアウェルパーティ]

総会Ⅱでは、新役員選挙、決議案審議・採択が行われた。

### 第4日 10月17日(金)

[神奈川県立公文書館見学、鎌倉観光]

## 5. 総会の主な内容

総会決議等主な内容は、以下のとおりである。

- (1) 稲橋一正(国立公文書館長)議長以下のEASTICA新役員が選出された。

副議長—マリア・ヘレナ・エボラ(マカオ歴史文書館長)

会計担当—リー・サンミン(李相敏)  
(韓国政府記録保存所評価室長)

事務総長—サイモン・チュー(香港歴史档案処長)

議長特別補佐—玄羽昭(国立公文書館企画連絡係長)

調整担当—徐玉清(中国国家档案局外事処長)

そのほか、4人の幹部メンバーが選任された。EASTICA事務局は香港歴史档案処に置くこととなった。

- (2) 東アジアにおける文書館運営や記録管理を発展促進するため、とりわけ文書館のオートメーション化をはかるために、文書館機関間の協力はさらに奨励されるべきである。このことから、「文書館のオートメーション化に関する専門家委員会」を設置することが決議された。なお、本委員会の詳細については、来年、蘇州役員会で検討することとなった。

- (3) 文書館機関それぞれの所蔵史料をより豊かにするため、文書館機関間における記録・文書史料の交換または取得を強化すべきである。この目的を達成するための、文化交流を基盤とした「文書史料の交換に関

する特別委員会」を設立し、各国・各地域メンバーはアーキビスト1名を当該委員会に派遣すべきことが決議された。

なお、決議採択後、国立公文書館長・EASTICA新議長の稲橋氏から当該委員会に国立公文書館からの委員の派遣は困難な場合もあるとの発言がなされた。

- (4) 決議案審議の中で、全史料協代表は、EASTICA総会等の活動は価値あるものであり、より多くの機関、人々がこれに参加できるようにすべきであると、参加枠の拡大を提案した。

これにより、各国・各地域メンバーは、より多くの文書館・類縁文化機関がEASTICAへ参画するよう、一層の普及活動を行うべきであることが決議に盛り込まれた。

- (5) EASTICAは、

①1998年9月に蘇州で役員会および「文書館の教育・専門研修セミナー」を開催、参加人数は30人程度(なお、これについて、参加枠を広げ、オープンセミナーの日程をとるよう要請した)、

②1999年10月に韓国で「第4回EASTICA総会」を開催、

③2000年初夏にモンゴルでEASTICA、モンゴル国立公文書館共催で「アジア文書館会議」を開催、することを決議した。

EASTICA設立に積極的な貢献をした、前国立公文書館長小玉正任氏に名誉会員の称号が授与された。

## 6. 所感

以上のように、EASTICAは東アジアにおける史料の保存とその管理・活用に関して活発な提言・活動を行っており、その中で新議長が日本から選出されるなど日本への期待は大きい。全史料協は日本からのNGO参加団体として、これまでの経験を生かし、さらに積極的かつ主体的にEASTICAの活動に参加していくことが求められている。今後、国内関係機関・団体との連絡を密にするととも

に、EASTICA参加の各国・各地域の機関・団体との情報交換・人的交流を継続していくことが大切である。また、EASTICA開催の各会議には全史料協の代表を派遣していくことが必要であることを申し添え、報告を終わる。

なお、国際交流委員会はEASTICA総会の資料集を今年度中に発行していく予定である。会議の詳細については、これを参考にされたい。

#### 参考資料：EASTICA参加メンバー一覧

##### Members of EASTICA

1. State Archives Bureau of China (Category A)
2. Chinese Archive Society (Category B)
3. Suzhou City Archives (Category C)
4. Sichuan Province Archives (C)
5. Jiang Su Province Archive's Society (C)
6. Xin Su Silk Factory (C)
7. Archives of China Aviation Industry Company (C)
8. Yizhen Chemical Fibre Company (C)
9. Yangzhou City Archives (C)
10. Yangtse Petro-Chemical Industry Company (C)
11. National Archives of Japan (A)
12. Japan Society of Archives Institutions (B)
13. Business Archives Association of Japan (B)
14. Okinawa Prefectural Archives (C)
15. Government Archives & Records Service, Republic of Korea (A)
16. Korea Records Conservation Association (B)
17. Public Records Office of Hong Kong (A)
18. Hong Kong Office, Genealogical Society of Utah (C)
19. Mr. Don Breck (D)
20. Macao Historical Archives (A)
21. State Bureau of Archives, P.D.R of Korea (A)
22. Archives Administration of Mongolia (A)